

ロンドンパラリンピックへの道

Road to London 第 2 回 Paralympic Games

出場権の獲得方法と国内選考

みなさんがオリンピックを最大の目標にするように、パラリンピックを目指し、日々、水泳に没頭する障害者スイマーがいます。同じ水泳に携わる仲間として、彼らを知り、そして少しでも親しみを持って応援できたら――。



今月は、パラリンピックの出場権をどのようにして獲得するのか、そして、国内での選考方法はどのようなものなのかをご紹介します。

出場資格、参加枠の取得

ロンドンパラリンピックの水泳競技は、10日間で148種目(男子81、女子67)が実施され、参加選手は男子340、女子260の計600名を最大とすることがすでに決まっています。ロンドンパラリンピックに参加するためには、国際パラリンピック委員会(IPC)へのライセンス登録を行ない、IPCクラスステイタスの「R (Review) 再評価」あるいは「C (Confirmed) 確定」を取得していることが絶対条件となります(注)。このステイタスというのは、障害の状況が変化する可能性があるために継続して観察が必要である(R)、もしくは確定と判断されたクラスである(C)、といった障害の状況のことをいいます。

この最低条件に加え、2010年8月15日から2012年5月20日の間のIPC公認大会において、MQS

(Minimum Qualification Standard・パラリンピック参加標準タイム)を1種目以上突破した選手が出場資格を得られることとなります。

出場資格があるからといって、その選手に出場権があるという意味ではありません。しかしながら、このようにして出場資格を満たした選手を1人でも多く輩出することが、日本チームとしての参加枠拡大につながることを意味しています。なぜなら、全世界でMQSを突破した選手数に対する各国MQS突破選手数の割合をもとに、各国に割り当てられる参加枠(参加人数)が決まるからです。ロンドンパラリンピックの参加枠は、IPCより6月4日に発表され、それを受けて国内選考が行なわれる、ということになります。

(注) IPCが認める大会でIPC公認クラス分け委員が行なうクラス分けを受検すると、クラスが付与される際に、クラスの確定度合いを示すステイタスが示される。

国際基準を受けた国内選考

日本パラリンピック委員会に加盟する競技団体が推薦し、次の全ての条件を満たす者が日本代表選手とし

てロンドンパラリンピックに出場することになります。

- ①ロンドンパラリンピック競技大会の参加資格を満たしている者
- ②メダル獲得、または入賞(水泳競技の場合は8位)の可能性のある者
- ③医学的観点から、日本代表選手として推薦できる者

日本身体障害者水泳連盟では、IPCが定める記録有効期間にMQSを突破した選手に対して、IPC Swimming ロンドンパラリンピックランキングから、国内男女別ランキングを作成し、その上位から選出するとしています。しかし、戦う集団として選考・選出するため、IPCより配分された参加枠をすべて使いきるとは限りません。また、若手の育成も加味し、リレー種目も視野に入れた選考を行なうとしています。

前回の北京大会では、出場全18選手が最低1種目以上で決勝進出を果たし、日本チーム全選手が入賞を果たしました。ロンドン大会ではさらなる飛躍が期待されています。

*次号は、「海外の障害者水泳事情」について、お伝えする予定です。

今月のTopics >>> 注目選手紹介



すずきたかゆき
1987年1月23日生まれ
静岡県出身
障害名/両大腿欠損、右
上腕欠損および左指欠損

幼少のころから水泳には親しんでいたが、本格的に取り組み始めたのは高校生になってから(中学時代は吹奏楽部。担当はハーブ!)。初めて参加した2004年アテネ大会では、200mメドレーリレーで銀メダルを獲得。2008年北京大会ではキャプテンを務め、50m平泳ぎで金(SB3クラス)、150m個人メドレー(SM4クラス)で銅メダルを獲得し、名実ともに

チームを引っ張った。

腕脚ともに左右の長さが異なるため、バランスよく筋力をつけ、それらをどう上手く連動させて泳ぐかが課題となっているが、鍛え上げた体幹や肩甲骨まわりは見事なもの。冷静で浮かれたところのない性格と真摯に取り組む姿勢は、誰もが一目置いている。まずは代表切符を獲り、本大会では50m平泳ぎ2連覇を目指す。文◎桜間裕子



力強い飛び込みから前半の加速が持ち味